

東海大学理学部

数学科同窓会会報

第二号

【巻頭言】

「数学科 存続の危機」

東海大学名誉教授 元理学部長 氏家 勝巳
理学部数学科創設以来、発展に御尽力頂きました多くの先達の方々に、心から感謝致し、御礼を申し上げますと共に、多方面で活躍されている卒業生の皆様には深く敬意を表しております。

理学部及び数学科は、着実に発展して参りましたが、創設当時とは、学生の意識をはじめ、種々の状況が大幅に変化して参りました。また、近年では、大学も国内外の社会情勢の変化に対応する必要が生じて参りました。

1992年を頂点に18歳人口は急速に減少し、受験生対策、社会からの要請の両面から見ても、緊急に教育内容の見直し図らなければならない状態になりました。2004年春には、入学定員に満たなかった私立大学は29.1%にのぼり、定員の5割に満たない私立大学は15校、充足率が7.3%の大学もある程で、近年では、さらに増加の一途を辿っております。

これに先立ち、1997年より本学も大幅な組織の改革、教育改革に着手し、全学で改組、改編が検討されました。その結果、大世帯である工学部が工学部と電子情報学部の二学部に分割され、幾つかの学科の名称の変更を行い、また、文学部、海洋学部等々、殆どの学部が改組、改編を行いました。

改組、改編を行うに当たっては、教育研究施設、教員の研究専門分野、学科の教育内容、年齢構成、社会及び受験生の学部・学科名の理解度、学科名称等々、数多くの問題、条件、要素があることは言うまでもありません。

理学部にも改組、改編の打診がありました。当初は、工学部と統合して、理工学部として理学部を吸収する案もありました。種々検討を重ねた結果、当時、実際に431余あった私立大学が、この数年の間に短大の改組により、533余と増加した私立大学の中で、理学部を持つのは14余と僅少で、全体の2%程度に過ぎません。その内容を見ると、本学のように、数学、情報数理学、物理学、化学の各学科を含めた基礎・応用科学全般を包括する大学は、その半数もありません。その中でも、偏りなく理学系を網羅する本学のような理学部は、日本だけでなく国際的にも存在意義を持っていると言っても過言ではないと思います。

理数離れといった教育上の問題の再検討が求められておりますが、最近では、数学科が消滅した大学も増加して

おります。然し、逆に近年、数学を学びたいという中高校生も多く、小・中・高校に学部、学科と同名の理数系科目が存在する限り、興味を持って取り組む生徒や、能力が認められる学生に対する教育は、大きな意義を持ち、不可欠であります。学科名称に致しましても、何を学ぶかが明確であり、将来の希望に対しても曖昧さはありません。種々の条件等を検討致しました結果、理学部は、改組、改編は行いませんでした。然し、今迄通りでは、新しい時代に対応するのは困難で、更なる教育内容の充実、学生指導に努力して行かなければなりません。数学科は今こそ総力を挙げて内容の充実を図り、数学科の存続のため、危機を乗り越えなければなりません。

数学科の先生方は、きめ細かな学生指導、教職希望者への指導、情報教育指導を含めての就職指導を全員で支援していると聞いております。学生による教育への授業評価も既に行われており、近々、北海道東海大学と九州東海大学が東海大学に併合され、情報工学部が高輪に建設されて発足することになっております。

本学では、昭和39年理学部発足を機に、生物科学科を加える構想があったと伺っておりますが、遂に日の目を見ることが出来なかったことは残念に思います。これに代わり、数学科の応用数学専攻を独立し、情報数理学科を設立したことは、誠に現代の情報化社会を見据えた判断の結果と言えましょう。

以上のように、時代と共に、理学部も種々変遷して参りました。数学科同窓生の皆様のご活躍を祈っております。機会を見てお出かけ下さい。



【数学科同窓会に寄せて】

数学科同窓会副会長：中村 昭宏

私が数学科の学生だった頃、同期生にIさんという、全盲の方がいました。Iさんと親しくなると、とにかく彼の物知りなのに驚きました。数学のことはもちろん、選択で共に学んだ化学についても、知識の宝庫のような人でした。講義を受けているIさんを見ていると、それはすごい集中力で聴いていて、時々、思いついたようにものすごいスピードで点字を打ち続けていました。共に大学院修士課程へ進学し、その後、確かIさんも博士課程まで進学したと思いますが、その頃から、あまりIさんと会う機会がなくなり、お互いに挨拶を交わすこともなく、それから二十数年が経過しました。その間、共に音信不通の状態でした。

現在、私の所属する分科会に、5、6年ほど前から、全盲の方が何度か発表していられます。Tさんという若い方で、非常に優秀で、論文もいくつか名の通った雑誌に掲載されている方です。複雑な評価を、鮮やかに不等式を用いて導いていくことに感心し、また大いに刺激を受けました。あるシンポジウムの休憩時間の時に、Tさんに声を掛けて話しているうちに、Tさんが“東海大出身のIさんという

方をご存じですか”と聞かれたのです。私は即座に、“彼と私は同期です”と答えると、TさんがうれしそうにIさんのことを話してくれました。現在、Iさんは数学を直接に研究することとは離れ、コンピュータ関係の仕事をしているとのこと、非常にできる方で、Tさんもいろいろお世話になっているとのことでした。

私は、思わぬ所で“同窓”というものを意識しました。普段、私は“同窓”ということあまり意識しないのですが（副会長としては不真面目でスママセン!）、このときは、それははっきりと感じたのです。数学科同窓会が動き始めました。けして皆さんに活動を押しつけるのではなく、皆さんの日常生活の中で、何かのときに“同窓”を感じられるような活動にしていきたいと考えています。

「はじめまして」

数学科同窓会副会長：松尾 久美子

数年前同窓会の集まりに出席しました折、名前だけということで副会長をお引き受けすることになりました。何事も会長他皆様方にお任せしたままで大変心苦しく存じております。同窓会誌創刊本当に嬉しく存じます。卒業以来もうすぐ何十年も経ち同窓の方々又、先輩後輩の方々ともお会いすることもなく連絡とれず今に至っております。大学四年間中一緒に力を合わせてという機会も少なく卒業時のアルバム写真などないままでしたため、お顔お名前など思い出すことが出来なくなってきております。今考えますととても残念なことです。近年になりましてこのような機会を設けていただき感謝いたしております。ここまではなみなみならぬご苦勞もさぞかし多くおありでしたでしょうと存じますが・・・

私個人としては息子二人が東海大学を卒業させていただき大変ご縁がございます。十年程前までは大学に何度も訪れ伺っておりました。参りますたびに建物は増え設備も一層充実し頼もしく思っておりましたが、その中でも木々の成長には驚かされます。私の入学致しました年に造園で

若い小さな木でしたので、時の早さを感じずにはられません。

そろそろ年齢的にも時間的にも余裕の持てる頃となって参りました。このまま忘れてしまわずに懐かしい時代を語り合えるこのときを大いに利用させていただきたいと考えております。皆様と共に楽しいひと時を過ごせましたら幸いです。是非連絡つく方にお声をかけていただき、お一人でも多くの方々のお話をお伺いしたいと存じます。これからもどうぞよろしくお願い申し上げます。

「数学科同窓会に寄せる想い」

私立樟蔭東学園 久保田 達夫

日増しに秋が深まりますが、卒業生の皆様におかれまし

ては益々ご隆昌のことと存じます。思い出せば、昭和五十五年の春に「父」とともに入学式に臨み晴れて大学へ入学し、最初に思ったことが、「両親」と高校の時に、いろいろ親身になってご指導下さり、「数学科」への道を開いてくださった「恩師」への「感謝の心」でした。そして、四月の末頃に、数学科主催の「新入生歓迎のソフトボール大会」で、先生も学生も一つになり、一緒になって一つの白球を追う、この時に「一人ひとり小さく力は弱くとも、心一つにすることで、強い糸ができる。」と私は、思いました。

入学以来、素晴らしい学友と共に「学べた」ことは、生涯の私の「宝物」であります。

いつも私が困った時に、「励ましてくれたり、アドバイスをしてくれる素晴らしい学友」に恵まれて大変幸せでした。

学術の面では、四年生の時に本学に赴任してこられた、永瀬輝夫先生のご紹介で恩師にあられる「本間の定理」で有名な本間龍雄先生の夏期集中講義を受講したことを、よく憶えています。講義を受けましたが、「難しかったな。」という印象が強かったです。

そんな自分も今は、大阪の私立樟蔭東学園にて中、高生から「先生」と呼ばれる立場となり、毎日多忙にしております。大学の時に出逢った多くの「先生」にいろいろ「ご教授」戴いたことを思い出しながら、教鞭を執っています。私も同窓生の一員として、「人を教え、育む。」ことに情熱を持って指導していきたいと思っております。大学生のころを回想しながら筆を執った次第です。今後も、「学友」との思い出を大切にすると共に、「東海大学理学部数学科同窓会」会員の皆様の益々のご健康・ご活躍・ご発展を、心よりお祈り申し上げます。同窓会の会報に、執筆させて戴きましたことに、心より感謝し厚く御礼申し上げます。

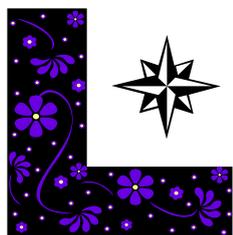
会報「創刊号」に思う

千葉県君津市教育委員会 本吉貞夫

数学科理学部同窓会会報の創刊号を拝見し、学生時代を懐かしく思うと同時に、同窓会設立にご苦勞され、会報発行にまでこぎつけた山田会長さん始め関係者の皆様方に心から感謝を申し上げます。ありがとうございました。

東海大学理学部数学科の未来における今後の発展は、現役学生の努力はもちろんのこと、私たちOB、OGがいかにかに結束し社会で活躍するかに掛かっているといっても過言ではありません。そんなためには、お互いに意見を述べ合い、情報を交換し、東海大学を支援していくことが大切だと考えます。川尻先生のおっしゃる縦糸を支え、太くするパイプ役として本会報が大きな効力を発揮するものと思えます。

ところで、私は昭和44年3月に数学科応用数学を卒業し、千葉県君津市の中学校教師として社会に一步踏み出しました。その後、県行政等様々な分野で多くの経験をさせ



ていただき、君津市立君津中学校校長を最後に昨年12月4日退職、縁あって12月6日付で君津市教育委員会にて教育長としてお世話になっております。昨今社会の教育に対する目は辛辣で大変厳しいものがあり、教育界が大きく揺らいでいる中、次々と国の教育改革が進み、日夜その対応に追われております。中央教育審議会とは別に内閣府に教育再生会議が設置され、12月第3次(最終)の報告が出されようとしておりますが、学校現場に密着した児童生徒へのきめ細かな指導ができるような内容を期待しているところです。

大学時代を振り返ってみますと、入学当初は湘南校舎に1号館と2号館ができたばかりでしたので広い敷地の中で砂埃にまみれながらも我が数学科は先生方と学生が一体となり和気藹々の中で勉学にいそしみ、先輩後輩の関係も絆は固く楽しくもまた有意義な学生生活で今もその時代にリターンしたい思いでいっぱいです。

川尻先生にはゼミで大変お世話になりましたが、代議員としても先生方と親睦を深めるためのソフトボール大会等でご指導いただきながら企画運営に当たったことも思い出の一つです。先生の「野次馬根性を持って」は大変含蓄のある言葉で、何事にも積極的に取り組み、人格の完成に努めよと言うことだと思っております、私も常にチャレンジ精神を持ち続け前進していきたいと考えております。

私は高校時代、生徒達にいつも一に健康、二に人柄、三に知性と指導してまいりましたが、皆様におかれましてはいつまでも健康で東海大学の卒業生として益々活躍し、社会に貢献していただけることを願い、私も頑張ることを誓いながら一筆とさせていただきます。

【活躍する卒業生】

証券保管振替機構 大谷真貴子

私は東海大学理学部数学科卒業後、同大学院修士課程へ進み、田中實先生のご指導のもと、平成11年に修了いたしました。修了後は、株式会社日本銀行(以下、「日銀」といいます)に入行。平成17年より調査役として、証券保管振替機構(以下、「ほふり」といいます)に在籍しております。

振り返ってみますと日銀では、「2000年対応」や「国債RTGS化¹」といった大きな案件に、ほふりでは、経済界、金融業界にとって大きな節目を迎えることになる再来年施行の「株券等の無券面化」という共に金融史に残る出来事に巡り会え、やりがいと共に役割の重みを感じる毎日です。

ここ何年も金融業界におりますが、未だに「数学科出身」といって金融工学が専門ですか?という質問を度々うけるほど、金融と数学のイメージが強く、毎回汗顔の至りと同時に力不足で申し訳ない気持ちになります。

思えば6年間学び得られたものは、物事を大局的に壮観できるまでに必要な忍耐力と思考力を養う土壌が得ら

れた気がいたします。

昨今は、どうしてもそろばん勘定に走りがちですが、限られた時間の中で物事の方向性や必要性などを損得抜きで勘案できるまでの忍耐力と全体を把握し先につなげていく思考力。そして金田一京助のいう「言葉を知ることは、物事をより正確に相手に伝えられる手段を知ることである」とあるように、自分の考えを相手に伝える言葉を持つ者ほど強い者はいないことを日々の業務で改めて感じております。

今回寄稿にあたり、卒業年代問わず交流が一層深まることをお祈りしつつ、筆を置かせて頂きます。

¹ Real Time Gross Settle の略。物<国債>とお金<資金>の決済方式を変更した。今までは複数の取引を纏め、差し引き計算後に、ある一定の時点で「国債」と「資金」の受け渡し(「決済」という)を行っていた。これを、1件毎に、即時に決済を行うようにした。

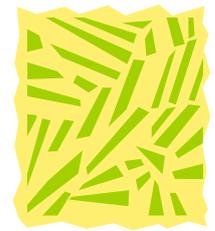
当時、世界的にも金融不安が起こっていた時期でもあり、受け渡しのタイムラグによる連鎖倒産等のリスクを最小化できる。

辰野町社会福祉協議会 石吾 孝之

私は、東海大学大学院理学研究科を昭和六十年三月に修了しました。その後は、製造業の会社に勤め、システムエンジニアをやっていましたが、三十五歳でその会社を退職し、現在は、辰野町社会福祉協議会に勤めています。社会福祉協議会は、社会福祉法で「地域福祉の推進を図ることを目的とする団体」として位置付けられており、全国の市区町村、都道府県・指定都市及び全国段階に設置され、そのネットワークにより活動をすすめています。また、民間組織として「自主性」を持つと同時に、広く住民や社会福祉関係者に支えられた「公共性」を持つ民間団体です。私はここで事務局次長として地域住民の支え合いによる地域福祉の推進を主な仕事としてしています。

現在数学とはかけ離れた世界で仕事をしていますが、大学・大学院を通じて勉強してきた数学が役にたっていることもあります。この仕事をしているといろいろな相談が住民から持ち込まれます。最近特に世相を反映してか複雑な問題が増えてきました。この問題を解決するときには数学的な推論の進め方が役立っています。また、仕事でストレスがたまったときには、昔使った専門書や論文を読み返しているとストレスが解消されます。

最近英語の勉強を始めました。中学、高校と勉強した英語ですが、論文や原書を読むときに苦労した記憶が甦ってきます。仕事上特に必要性はないのですが、外国人の方と会話をしたり、海外の原書を読んでみたくなりました。遅々として進まない毎日ですが、何か効率的な勉強方法が



あったらご指導ください。

まとまらない話になりましたが、数学を勉強したことにより現在の私があると思います。何かひとつのことに真剣に取り組むことが、今後の生活の糧になると思います。大学・大学院を通じてご指導くださった田中實先生に感謝しています。

ブルデンシャル生命保険㈱ 平出一剛

私は生命保険業界に勤め、早いもので13年目となります。現在私は、事業年度末における責任準備金(保険会社が将来の支払い備えて、お客様から頂いた保険料の中から積み立てているもの)の検証、会社全体の収支状況や将来の収支分析、保険商品の保険料算出などの業務を行っております。

魅力を感じる部分としましては、数学は1つの答えを導くものであるのに対し、アクチュアリーの世界においては、論理により導かれた数字(すなわち収支)に対する評価は、基本の考え方や前提条件によって異なり、絶対的な正解はないということです。そこが難しい部分でもあり面白い部分でもあります。また、自分の会社だけではなく、他社のアクチュアリーと知り合う機会があり意見交換ができることです。法律の改正に関する事や売り上げ等の経営状況等、常に情報のアンテナを張り、関連する部門に対してお互いに情報を共有することを心がけております。

様々な方から話を伺う中で感じる事としましては、アクチュアリーの役割は、会社の健全性の維持や保険契約者間の公平性の確保を果たしていくことです。その部分は今後変わらないと思います。それと共に、金融工学やリスク管理等の他部門での必要性、国際会計基準等の諸外国の動きからも、活躍する分野がますます広がってゆくものと感じております。

生命保険のみならず損害保険や信託銀行、コンサルティング、監査法人等、どの業界にとってもアクチュアリーは必要な存在であると思います。しかし、現状では、絶対的な数が不足していると感じております。今後、多くの方がアクチュアリーを目指され、自由な発想と緻密な論理を活かして行動されることを期待します。(1995年3月卒業)

【同窓会の活動状況】

毎年の学位授与式当日には数学科同窓会の紹介を行い入会の案内を行っております。また、2004年度の卒業生から数学科同窓会賞および副賞の授与を行っております。

定例的に代議員会を開催し総会のことや会報のことなど運営について話し合いを行っております。

数学科同窓会の会報は2007年3月に創刊し年一回の発行を予定しています。

数学科同窓会の会員数は2007年4月現在:3534名です。

【卒業生の一言メッセージ】

卒業してはや36年と半年、あと1年半で定年を迎える今、コンピュータ関係一筋でここまでこれたのも母校の数学科で過ごした仲間がいたからではないかと思っています。感謝・感謝です。これからもよろしく(石川県庁勤務→石田次道より)

【事務局便り】

数学科同窓会の会報は同窓会の運営状況や東海大学の話題など、同窓生にとって有意義な情報発信できればと思っています。興味のある企画などありましたらお寄せください。卒業生の一言メッセージを募集します。お寄せください。広告の掲載を募集しています。掲載を希望される人は下の連絡先にお問合せください。

数学科同窓会に関するお問い合わせも、次の連絡先までお寄せください。E-mailでお待ちしています。

連絡先 〒259-1292 神奈川県平塚市北金目1117

東海大学理学部数学科同窓会事務局

事務局長: 原田 三行 (70年度卒)

e-mail: zharada@tokai.ac.jp

同窓会の運営経費は会員皆様の会費によって維持されております。一口2000円(何口でも可)を次の郵便口座まで振り込んでいただきますよう皆様のご協力をお願いいたします。なお、納入者については会報に掲載しご報告とさせていただきます。

口座番号: 10200-25747091

口座名: 東海大学数学科同窓会

【同窓会費納入者名簿】敬称略

【2006年度卒業生】1口: 麻生嶋佑介、荒木直祐、市原隼、嶋一之、谷中祐介、寺田純太、中村恵太、松井陽介、吉田博一

【2007年】10口: 山崎則夫、3口: 門間裕子、2口: 小野繁夫、1口: 飯塚秀樹、岡本雅史、北沢菊枝、佐藤昌宏、和田輝也

【訃報】

稲垣 優 先生(名誉教授・理事)2006年1月6日 97歳
吉田 節三 先生(名誉教授)2007年2月22日 77歳
同窓生の皆様と共にご冥福をお祈りいたします。



【発行】

発行日 2007年11月3日

発行人 山田 正和

発行所 東海大学理学部数学科同窓会

〒259-1292

神奈川県平塚市北金目1117